

1 事業名

「体験の風をおこそう」運動協賛事業  
平成29年度教育事業「ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト」

2 趣旨(事業の目的)

ボランティアがチームを組んで事業の企画立案をすることで、社会を生き抜く力を磨くとともに、創造性やチャレンジ精神、リーダーシップ、コミュニケーション能力などの育成に向けた多様な体験の機会を提供する。

3 期日及び参加者(国立岩手山青少年交流の家で活動する法人ボランティア)

回数	期日	参加者内訳		
		男性	女性	計
第一回	平成29年 5月21日(日)	4名	5名	9名
第二回	平成29年 6月18日(日)	2名	1名	3名
第三回	平成29年 7月 8日(土)~9日(日)	4名	10名	14名
第四回	平成29年 8月 6日(日)	3名	3名	6名
第五回	平成29年 8月25日(金)	3名	1名	4名
第六回	平成29年10月29日(日)	4名	2名	6名
第七回	平成29年12月 3日(日)	8名	5名	13名
第八回	平成30年 3月10日(土)~11日(日)	11名	12名	23名
	総計	39名	39名	78名

4 内容

(1) 指導者

第一回「チームビルディングと組織キャンプ運営の心得」

国立岩手山青少年交流の家 事業推進係 山崎 啓陽  
国立岩手山青少年交流の家 副主任企画指導専門職 佐々木 真里子  
国立岩手山青少年交流の家 企画指導専門職 工藤 祐幸

第二回「組織キャンプ運営の立案①」

国立岩手山青少年交流の家 事業推進係 山崎 啓陽  
国立岩手山青少年交流の家 副主任企画指導専門職 佐々木 真里子  
国立岩手山青少年交流の家 企画指導専門職 工藤 祐幸

第三回「NEAL 自然体験活動指導者(リーダー)養成研修」

自然遊びクラブ 代表 豊留 雄二氏  
国立岩手山青少年交流の家 主任講師 田口 康宏  
国立岩手山青少年交流の家 副主任企画指導専門職 佐々木 真里子  
国立岩手山青少年交流の家 企画指導専門職 工藤 祐幸  
国立岩手山青少年交流の家 事業推進係 山崎 啓陽

第四回「組織キャンプ運営の立案②」

国立岩手山青少年交流の家 事業推進係 山崎 啓陽  
国立岩手山青少年交流の家 副主任企画指導専門職 佐々木 真里子  
国立岩手山青少年交流の家 企画指導専門職 工藤 祐幸

第五回「組織キャンプ運営の実際」

国立岩手山青少年交流の家 事業推進係 山崎 啓陽  
国立岩手山青少年交流の家 副主任企画指導専門職 佐々木 真里子  
国立岩手山青少年交流の家 企画指導専門職 工藤 祐幸

#### 第六回「プロジェクト中間報告会・組織キャンプ運営の立案」

国立岩手山青少年交流の家	事業推進係	山崎 啓陽
国立岩手山青少年交流の家	副主任企画指導専門職	佐々木 真里子
国立岩手山青少年交流の家	企画指導専門職	工藤 祐幸

#### 第七回「組織キャンプ運営の実際」

国立岩手山青少年交流の家	事業推進係	山崎 啓陽
国立岩手山青少年交流の家	副主任企画指導専門職	佐々木 真里子
国立岩手山青少年交流の家	企画指導専門職	工藤 祐幸

#### 第八回「法人ボランティア活動報告会」

国立岩手山青少年交流の家 法人ボランティア  
「新年度へ向けたプロジェクトチームの構築」

国立岩手山青少年交流の家	事業推進係	山崎 啓陽
国立岩手山青少年交流の家	副主任企画指導専門職	佐々木 真里子
国立岩手山青少年交流の家	企画指導専門職	工藤 祐幸

### (2) 企画のポイント

「岩手山ボランティア育成ビジョン」をもとに、ボランティア「育成サイクル」に着目した取組であった。事業の展開として、法人ボランティアと注力していきたいことを確認した上で、前年度に実施した複数体制でのプロジェクトチームは見直し、新規のボランティア獲得を主眼に置いた自主企画事業の計画と実施をすることにより、法人ボランティアの主体性、自主性の向上を図った。

第一回目は、活動時における危機管理やリスクマネジメント、施設の利用方法などボランティアが自主企画を行う上で必要となる知識・技能の習得を主眼とした。また、第二回～七回（第三回は除く）については、参加ボランティアの裾野を広げ、教育事業「テンパークちゃれんじクラブ」における活動プログラムの企画立案を実施した。

第三回は、「NEAL 自然体験活動指導者（リーダー）養成研修」に参加者として、自然体験活動の基礎や知識を学んだ。

第八回においては、本事業の取組を含めた、岩手山青少年交流の家の法人ボランティア全体の取組について発表の場を設けることで、プレゼンテーション能力の育成とともに、ボランティア個人の成果を全体で共有することのできる仕組みを構築した。

### (3) 広報のポイント

メンバーの自主企画という点を活用し、法人ボランティア以外の大学生の参加も促した。企画に参加した学生の中には、それ以後の教育事業に参加した者や、法人ボランティア登録を行った者など、ボランティア活動に興味をもたせるきっかけ作りとなった。

### (4) 運営のポイント

「テンパークちゃれんじクラブ」の企画において、学生が毎回参加出来るとは限らないため、二回目以降から参加した場合でもスムーズに引き継ぎが行えるよう資料様式の統一や、各チームのLINE グループを作り、情報共有を密に行った。

また、新規ボランティア向けの「アイスブレイク」や「火起こし」などの初歩的な活動も継続して取り入れ、それらを先輩ボランティアが中心となって指導に当たる事により、役割や「育成サイクル」を意識して活動できるように努めた。

## 5 自主企画事業の実施内容と取組結果

新規ボランティア獲得のためのアドベンチャーキャンプを実施した。6月に事前のプレキャンプを実施したが、申込者数が芳しくなく本実施は中止となってしまった。その後、初回の反省を基に検討し、宿泊などが厳しいのではないかと踏まえ、2月に日帰り事業を実施した（参加者8名）。参加者からは、「アイスブレイクなど、すぐに実践できそうなものが特に勉強になった」という声が聞かれ、次年度のボランティア養成講座に興味を持ってくれた参加者もいた。

## 6 成果とその普及

先輩ボランティアが後輩ボランティアを育てる「育成サイクル」を重視し、上手く機能したことにより、現状の岩手山は法人ボランティア活動における参加人数や実働人数などにおいて、機構内でも上位に位置している。

学生の自主企画ということにより、参加者にとって同じ学生同士である点が参加へのハードルを下げ、その後の教育事業への参加や法人ボランティア登録に繋がり、既存の法人ボランティアから次代に繋がる人材の発掘に大きく寄与した。

## 7 今後の課題

人数的にも中心となっていた4年生が卒業となり、3年生以下のメンバーが自分たちのみでの活動に不安を覚えている。継続的な参加をしており、次期3年生として中核メンバーにと期待していた学生3名が揃って1年間の海外留学となったことも予想外であった。職員がフォローに当たる必要がある点と、新規ボランティア獲得のための広報により一層力を入れていく必要がある。

また、成果で挙げた「育成サイクル」が上手く機能した反面、新規ボランティアからはレベルが高く参加し辛いといった声も聞かれた。

次年度から長期キャンプも始まり、ボランティアへの要請がより多くなっていくことから、招集する事業の計画的な運営を行なわないと、ボランティア離れの一因となりうるので、職員間で招集事業の精査をしていく必要があると思われる



企画ミーティング



NEALリーダー講習